

登別市地域福祉実践計画の分析から

伊藤春樹・鳥居一頼*・藤江紀彦**・坂本大輔***・安田恵美****

Community Care in Noboribetsu City

Haruki Ito, Kazuyori Torii, Norihiko Fujie, Daisuke Sakamoto, Megumi Yasuda

地域福祉計画に基づいて、地域福祉の推進の旗頭である各市町村の社会福祉協議会は地域福祉活動計画を立て、地域福祉をどのように実践にするかの計画を立てる。この地域福祉活動計画は住民参加のもとに作成されるのが望ましいとされている。今回、北海道の登別市の地域福祉活動計画に当たる地域福祉実践活動計画を策定するためのアンケート調査を行い、集計作業を行ったので、現在の分析結果を中心にまとめてみたい。特に、今回の分析は性別による分析を中心にして行い、男女差に基づく差異を検討した。

Keywords : 地域福祉、地域福祉計画、地域福祉活動計画、ニーズ
Community Care, Community care Plan, Needs

1. はじめに

全国社会福祉協議会は平成15年に「地域福祉計画策定への協力ならびに地域福祉活動計画推進における社会福祉協議会の取り組み方針」において、「地域福祉計画は、その策定を通じて『住民参加』と『福祉の総合化』の推進を図るものであり、市町村における地域福祉を具体化するために不可欠なものである。地域福祉を推進する団体として社会福祉法に明確に位置づけられた市区町村社協は、その使命として市町村地域福祉計画策定に協力するとともに、これにあわせ地域福祉活動計画を策定することが必要である」¹⁾と述べている。今回の研究においては、北海道登別市²⁾を事例にして行う。

登別市の人口は52.2千人（男24.9千人、女性27.3千人、高齢化率24.6%）の北海道の地方都市である。登別市の男女別人口構成は、高齢者層において女性の割合が高いが、これは多くの市町村に共通することである。この登別市の社会福祉協議会は、社会福祉法で明文化された「地域福祉の推進」を目指している。この登別市社会福祉協議会は、「登別市における地域福祉の推進役として、市が策定する『行政計画』及び北海道社会福祉協議会等との連携を図りながら、市民・関係機関・団体等から広く意見、要望、活動参画等を求めて、民間の立場から推進する『地域福祉活動計画』と登別市社会福祉協議会の体制整備に取り組む『社協発展強化計画』との二つの要素を併せ持つ『地域福祉実践計画』を策定することを目的とする」³⁾と第二期登別市地域福祉実践計画「きずな」策定要綱の目的に述べている。そして、この要綱の中で実践計画の内容の基本目標として、全道共通の目標である「在宅生活を支える総合的な地域福祉の推進」と登別市独自の目標である「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり～きずなを紡ぎ豊かな人間関係づくりを～」の二つを挙げている。

* NPO 法人北海道ボランティアコーディネーター協会 専務理事
** 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 事務局長
*** 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 総務係長
**** 社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 主事

この計画を作成するにあたり、市民の意向を把握することが重要なのでアンケート調査を行った。

2. 回答者の特性

地域福祉実践計画が地域福祉計画と連動しながら作成されるものであるとするなら、計画作成段階から「福祉の総合化」と「住民参加」は必要不可欠である。この二つの要件を配慮しながらアンケート調査を行い、1,742名の回答を得たので中間報告としてここに示したい。

全回答者の性別人数と割合は、表1に示すように男女それぞれ、45.5%、53.8%であり、女性の割合が8%ほど高い。これを年齢別の割合で調べてみると60歳代が最も多く、次いで50歳代、70歳代となるが、50歳から79歳までで75%以上を占める。60歳代以上の回答者が59.5%を占め、50歳から69歳までの回答者で58.7%を占める。従って、このアンケートの回答者は50歳代以上の回答者がほとんどであることを配慮しながら、分析をしなければならない(表2)。

別の考え方をすれば、どちらかといえば支援される側になるリスクの高い人の回答者が多いことが特徴である。

性別による年齢区分構成を表3で比べてみると、50歳以上の回答者は男性が85.5%、女性が79.3%、60歳以上の回答者は男性が64.9%、女性が55.1%、65歳以上では、それぞれ46.3%、34.5%、70歳以上では、それぞれ27.3%、19.4%である。従って、男性は女性に比べて高齢者の回答が多い。男性においては70歳代が20%を超えること、女性では30歳代、40歳代がそれぞれ6.1%、11.1%と男性のこれらの年齢層より約3%高いのが特徴である。

これは、高齢になればなるほど、一般的には男性よりも女性の人数の方が増えるにもかかわらず、回答者の傾向は逆になっている。それゆえに、この回答者の構成上のひずみがアンケート調査結果にも影響していると考えの方が正しい。

ただ、地域福祉に住民参加の原則を持ち込もうとするときに、より積極的な住民の参加をまたなければならない上に、より積極的な参加を促すようにしなければならない。

住民参加を促すためには、住民に対して平等に気を使いながら、住民のニーズを平等にくみ取る取り組みも必要である。このようなアンケートにも積極的に参加する住民のニーズはそうでない住民のそれよりも高いと考えて、積極的でない住民の意識に変革を促すことも、重要かもしれない。

表1 性別、回答者の人数と割合

	人数	割合
男性	792	45.5
女性	938	53.8
無記入	12	0.7
合計	1,742	100.0

表2 年齢区分別回答者の人数と割合

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上	無記入	合計
人数	52	86	165	389	634	285	101	17	13	1,742
割合(%)	3.0	4.9	9.5	22.3	36.4	16.4	5.8	1.0	0.7	100.0

表3 性別・年齢区分別、回答者の人数と割合

	回答者数				男女別回答者数の割合			
	男性	女性	無記入	合計	男性	女性	無記入	合計
20歳代	21	31	0	52	2.7	3.3	0.0	3.0
30歳代	28	57	1	86	3.5	6.1	8.3	4.9
40歳代	60	104	1	165	7.6	11.1	8.3	9.5
50歳代	162	227	0	389	20.5	24.2	0.0	22.3
60-64歳	147	193	0	340	18.6	20.6	0.0	19.5
65-69歳	151	142	1	294	19.1	15.1	8.3	16.9
70歳代	159	123	3	285	20.1	13.1	25.0	16.4
80歳代	52	48	1	101	6.6	5.1	8.3	5.8
90歳代以上	5	11	1	17	0.6	1.2	8.3	1.0
無記入	7	2	4	13	0.9	0.2	33.3	0.7
合計	792	938	12	1,742	100.0	100.0	100.0	100.0

注) 60歳代が60—64歳と65-69歳と年齢区分を二つに分けている。

登別市の就業者数を産業別に見ると、第一次産業従事者が1.1%、第二次産業が25.5%、第三次産業が73.4%となっており、北海道の平均に比べ、第一次産業の構成比が低く、逆に、第二次産業及び第三次産業の構成比が高くなっている⁴⁾。

今回のアンケートでは、職業別の回答において、無職と答えた人が半数を超え、年金生活者と思われる人がアンケートに参加しているのが伺える。会社員・団体職員の回答者は全体で20%未満であるが、男性は28.4%、女性は10.6%である(表4)。比較的年齢の高い回答者が多いことが原因なのかもしれないが、女性が正規の職業に就いていることが少ないように思われる。これはパート・アルバイトと回答した人の割合が、男性では6.2%であるのに、女性においては18.4%と非常に高いことから伺える。また女性の無職という回答者の割合が、男性のそれより高いことも、一般的な特徴でもある。

表4 性別、職業別回答者の人数と割合

	回答者数				回答者の割合(%)			
	男性	女性	無記入	合計	男性	女性	無記入	合計
学生	0	3	0	3	0.0	0.3	0.0	0.2
農業	0	2	1	3	0.0	0.2	8.3	0.2
漁業	3	1	0	4	0.4	0.1	0.0	0.2
会社員・団体職員	225	99	1	325	28.4	10.6	8.3	18.7
公務員	41	19	0	60	5.2	2.0	0.0	3.4
自営業	62	39	1	102	7.8	4.2	8.3	5.9
パート・アルバイト	49	173	0	222	6.2	18.4	0.0	12.7
無職	368	508	5	881	46.5	54.2	41.7	50.6
その他	41	84	0	125	5.2	9.0	0.0	7.2
無記入	3	10	4	17	0.4	1.1	33.3	1.0
合計	792	938	12	1,742	100.0	100.0	100.0	100.0

表5 性別・世帯構成別回答者の人数と割合

		単身世帯	夫婦のみ	親と子 (二世帯)	3世代	4世代	その他	無記入	合計
人数	男性	54	380	295	31	1	22	9	792
	女性	138	338	359	61	6	26	10	938
	無記入	1	4	2	1	0	0	4	12
	合計	193	722	656	93	7	48	23	1,742
割合	男性	6.8	48.0	37.2	3.9	0.1	2.8	1.1	100.0
	女性	14.7	36.0	38.3	6.5	0.6	2.8	1.1	100.0
	無記入	8.3	33.3	16.7	8.3	0.0	0.0	33.3	100.0
	合計	11.1	41.4	37.7	5.3	0.4	2.8	1.3	100.0

表5で回答者の世帯構成をみると、女性の単身世帯が男性の倍以上あり、男性は夫婦のみの世帯が回答者の約半数を占めていることが目立つ。親子に世代は男女ともにほぼ同じ割合の回答者である。しかし、回答者の79.1%が夫婦のみ世帯か親子に世代の家族であるので、この家族構成で生活している人の意見を集約しているともいえる。また、単身世帯における女性の回答者が14.7%と男性よりも約8%高い。これは、高齢者の回答者が多いことに起因していると考えられる。

居住区別の回答者の割合は大きな差もなく分布していることが、表6から分かる。今回は居住地区によってニーズが異なるかどうかを調べることも重要であるが今回は紙面の問題もあるので、別の機会を設けて発表したい。

表6 性別・居住地区（小学校区）別回答者の人数と割合

		登別小学校区	幌別小学校区	幌別東小学校区	幌別西小学校区	青葉小学校区	富岸小学校区	若草小学校区	鷺別小学校区	無記入	合計
人数	男性	100	107	72	102	83	106	113	92	17	792
	女性	99	119	90	138	100	124	125	131	12	938
	無記入	1	1	0	2	1	0	1	2	4	12
	合計	200	227	162	242	184	230	239	225	33	1,742
割合	男性	12.6	13.5	9.1	12.9	10.5	13.4	14.3	11.6	2.1	100.0
	女性	10.6	12.7	9.6	14.7	10.7	13.2	13.3	14.0	1.3	100.0
	無記入	8.3	8.3	0.0	16.7	8.3	0.0	8.3	16.7	33.3	100.0
	合計	11.5	13.0	9.3	13.9	10.6	13.2	13.7	12.9	1.9	100.0

表7 性別・「きずな」認知別回答者の人数と割合

		よく知っている	少し知っている	名前程度知っている	全く知らない	無記入	合計
人数	男性	106	163	229	287	7	792
	女性	100	188	292	350	8	938
	無記入	1	3	1	2	5	12
	合計	207	354	522	639	20	1,742
割合	男性	13.4	20.6	28.9	36.2	0.9	100.0
	女性	10.7	20.0	31.1	37.3	0.9	100.0
	無記入	8.3	25.0	8.3	16.7	41.7	100.0
	合計	11.9	20.3	30.0	36.7	1.1	100.0

「きずな」を知っている回答者は、「よく知っている」と「少しは知っている」とを含めて30%を少し超える程度であり、「全く知らない」の回答者の割合を下回るのが現実として認識して、社会福祉協議会としてさらなる努力が必要なることを示している(表7)。社会福祉協議会が市民や住民に知られていないことは登別市だけの特徴ではなく、全国的にも社会福祉関係者を除いてあまり知られていない。とにかく、このような特徴を持つ回答者の回答を基にして分析を行った。

3. 回答者の望む福祉

アンケートの第二段階に「福祉のことにおたずねします」として、今回調査したい内容に踏み込んでいる。第一に、登別市地域福祉実践計画「きずな」策定要綱に基づいて行われたこのアンケート実施の主体である「きずな」の認知度を調査している。前章の回答者の特性の一つとして表7に示し、社会福祉協議会の重要な活動が市民に知られているかを知る重要な手掛かりとして、社会福祉協議会、社会福祉協議会の活動が市民の皆さんに知られることは重要であると思ひ、一層の努力が必要であると述べたが、逆に、もし「きずな」をよく知っている人の回答が多ければ、身内、仲間内だけでの調査にとらえることができる側面もある。今回の調査では、前にも述べたように、「全く知らない」と回答した回答者の人数が36.7%だった。このことは、より多くの市民の皆さんの協力を得ようと努力している一面であると理解することができる。

さて、福祉のことに関して、高齢者、障害者(児)、子育て等についてどのようなことを望んでいるか回答を求めた。

高齢者のことに関しては、一人の回答者が10の選択肢の中から平均2.6の選択をした。「定期的な見守り支援」が最も多く、次いで「介護者への支援」、「孤独・孤立・無縁死対策」となり、これらは回答者の半数以上が望んでいるが、「話し相手の確保」が20%をわずかに超えるだけで、これ以外の項目を望む希望者割合は全て20%以下である。性別による違いはどの項目に関してもわずかな違いしかないため、高齢者対策に関して、性別による希望の差はほとんどないと判断できるが、50%を超える3つ全ての項目において、わずかではあるが女性の要望者が少し男性よりも多い(表8)。

「障害児・者のことに関すること」に関して、「相談窓口の充実」「介護者の支援」「社会参加の場の提供」「就労支援」の4つの項目が40%を超える要望を示しているが、これら以外は20%以下と格段の差がある。この要望の高い4項目に関して、性別で見ると、ほとんど差がないが、高齢者に関する

こととは異なり、「相談窓口の充実」に対する女性の要望は男性よりも高いが、その他の3項目に関しては男性のほうが女性よりも要望している（表9）。

「子育て」のことにに関して、「虐待防止と早期発見」「学童保育の充実」「相談窓口の充実」「緊急時の託児支援」が、40%を超える回答者が要望し、「遊び場の確保」「不登校児童への支援」は20%を超える回答者が要望しているが、他の項目はそれ以下である。この回答者の要望が40%を超える4つの項目に関して、性別で調べてみると、「緊急時の託児支援」「学童保育の充実」を女性が男性より強く要望しているが、「虐待防止と早期発見」「相談窓口の充実」は男性が女性よりわずかであるが強く要望している。ただし、男女の差があるとはいえ、数%の違いで違いというほどではないかもしれない。ただ、子どもが病気になったりするときの「緊急時の託児支援」というものは、女性に男性よりも大きな問題を生んでいるようである。

表8 高齢者のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	策 孤独・孤立・無縁死対	話し相手の確保	定期的な見守り支援	の世話	掃除等の身の回り	居場所づくり	買物支援	虐待防止と早期発見	介護者への支援	後見制度	権利擁護事業・成年	その他
男性	49.49	20.96	58.84	14.14	17.42	14.14	15.40	54.67	7.45	1.52		
女性	52.35	19.72	58.74	16.63	18.76	19.72	15.25	56.18	6.72	1.81		
無記入	25.00	33.33	58.33	8.33	33.33	16.67	16.67	33.33	16.67	0.00		
合計	50.86	20.38	58.78	15.44	18.25	17.16	15.33	55.34	7.12	1.66		

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが2名いた)。一人平均2.6の複数回答をした。

表9 障害児・者のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	相談窓口の充実	就労支援	子供社会参加の場の提供	移動支援	介護者の支援	情報の保障	特別支援教育	バリアフリー	年 後見制度	権利擁護事業・成	その他
男性	48.74	43.43	46.72	11.11	49.62	7.07	15.78	17.55	9.22	0.88	
女性	50.43	43.28	45.84	11.62	48.61	7.36	19.94	18.34	8.21	1.28	
無記入	33.33	41.67	50.00	8.33	33.33	0.00	8.33	16.67	33.33	8.33	
合計	49.54	43.34	46.27	11.37	48.97	7.18	17.97	17.97	8.84	1.15	

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが3名いた)。一人平均2.5の複数回答をした。

表 10 「子育て」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	相談窓口の充実	学童保育の充実	緊急時の託児支援	見 虐待防止と早期発	福祉の学習の推進	援 不登校児童への支	遊び場の確保	り 親子の居場所づく	その他
男性	42.05	40.03	37.50	48.74	13.51	23.86	23.61	17.17	1.14
女性	41.68	43.50	43.28	46.38	12.58	23.24	26.97	13.11	0.64
無記入	41.67	50.00	41.67	16.67	16.67	16.67	25.00	16.67	16.67
合計	41.85	41.96	40.64	47.24	13.03	23.48	25.43	14.98	0.98

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが3名いた)。一人平均2.5の複数回答をした。

「自宅で介護するためのサービス」のことに関しては、「サービス利用料の負担軽減」が回答者の45%を超える人が要望し最も多いが、次いで「通院や外出の際の移動支援」、「介護サービスを利用するための情報」、「介護者の交流・悩み相談」という順になっているが全て40%を下回っている。しかし、他の項目もそれなりに高い割合を示し、自宅で介護することに关して市民の要望がとっては分散している。性別での要望の違いを調べてみると、「サービス利用料の負担軽減」に关しては男女の要望はあまり差がない。しかし、「夜間の利用や宿泊できる通所サービス」に关しては、女性が男性よりも約10%も多く要望し、「訪問介護・訪問看護サービス」については逆に男性が7%強多く要望している(表11)。

この表11の項目は、表8と表9に共通する居宅のサービスの在り方に対する希望を尋ねているが、対象者の人数の関係で高齢者に対するサービスの傾向が出ていると考えられる。

社会福祉を日常生活の自立支援と捉えるならば、生活上の問題に关しても質問をしなければならぬ。このように尋ねてみると、「医療の充実」が58.1%とほとんどの市民が望んでいることの確認が取れた。一方、「通院の介助・支援」は45.6%が要求しているが、前の質問で訪ねた時にはこれより約5%低い回答を得ている。性別に关してはほとんどの差がなく各項目を望んでいる(表12)。

表 11 「自宅で介護するためのサービス」のことに关する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	談 介護者の交流・悩み相	支 援	通 院や外出の際の移動	る ための情報	介 護サービスを利用す	軽 減	サ ービス利用料の負担	な どの通所サービス	イ 短期入所(ショートステ	る 通所サービス	夜 間の利用や宿泊でき	ビ ス	訪 問介護・訪問看護サ	ケ ア付きの高齢者住宅	そ の他
男性	38.01	39.39	36.24	45.83	15.78	15.53	19.95	28.79	28.03	1.14					
女性	34.22	40.83	37.85	45.10	14.71	21.54	29.85	21.64	29.10	0.53					
無記入	33.33	8.33	33.33	25.00	8.33	33.33	33.33	25.00	33.33	8.33					
合計	35.94	39.95	37.08	45.29	15.15	18.89	25.37	24.91	28.65	0.86					

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが6名いた)。一人平均2.7の複数回答をした。

表 12 「生活」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	相談の充実	生活の困りごと	理 財 資産・日常金銭管	ゴミ出し・分別	医療の充実	通院の介助・支援	宅配	経済的支援	低所得者世帯の	生活情報の収集	その他
男性	51.14	5.93	11.11	58.08	44.19	7.83	41.16	19.95	1.01		
女性	48.40	3.62	8.96	58.32	46.70	9.28	44.56	20.04	0.85		
無記入	50.00	0.00	8.33	41.67	50.00	8.33	25.00	41.67	8.33		
合計	49.66	4.65	9.93	58.09	45.58	8.61	42.88	20.15	0.98		

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが3名いた)。一人平均2.4の複数回答をした。

また、安心して落ち着いた生活を毎日送るためには、町の犯罪発生率が少ないことが理想である。このために、どのような対策が必要か尋ね、表 13 のような結果を得た。「不審者・犯罪者対策」が最も高く70%近くの人が望んでいるのには驚くべきことである。「安全・交通パトロール」が最も高いと思いがちであるが、「不審者・犯罪者対策」、「悪質商法・振込め詐欺対策」に続いて第三番目であった。そして、北海道は人口の減少が既に始まっており、登別市もその例外ではない。この人口の減少にともなう、「空き家対策」、「空き巣対策」にも興味が高いと考えていたが、わずかに30%を少し超えるだけであった。

また、性別で比較してみると、男女による要望の違いはほとんど存在しない。

表 13 「犯罪」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	対策 不 審 者 ・ 犯 罪 者	空 き 巣 対 策	ロ ー ル 安 全 ・ 交 通 パ ト	め 詐 欺 対 策 悪 質 商 法 ・ 振 込	空 き 家 対 策	そ の 他
男性	69.07	30.05	51.14	56.82	30.30	1.26
女性	69.83	30.81	49.79	53.73	31.88	0.75
無記入	66.67	25.00	41.67	41.67	16.67	8.33
合計	69.46	30.42	50.34	55.05	31.06	1.03

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが4名いた)。一人平均2.4の複数回答をした。

防災に関しては、「災害時要援護者の確認」が70%近くの人が必要と認めている。「防災用品の備蓄整備」とか「災害時のサポート体制」が重要と考える人が多いと考えるのが当然と思えるが、予防よりも具体的な支援体制の確立により近いものに市民の意識がある。予防という名のもとに多くの投資をしなければならぬような施策よりも、それほど多額な投資を必要とせず誰でもが必要な時に迅速に可能な事柄に関心があると理解できる。さらに、性別でこれを調べてみると、男性が女性よりも避難所の確保やサポート体制等に興味が強く、女性は男性よりも現実的な援助に関心があるようである(表 14)。

表 14 「防災」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	備蓄整備	防災用品の	所の確保	適切な避難	護者の確認	災害時要援	ポルト体制	災害時のサ	防災研修	その他
男性	59.97	49.62	64.90	16.04	0.88	0.00				
女性	61.51	45.20	70.68	12.79	0.32	0.11				
無記入	33.33	50.00	58.33	25.00	0.00	0.00				
合計	60.62	47.24	67.97	14.35	0.57	0.06				

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが1名いた)。一人平均1.9の複数回答をした。

どのような関心・要望があるにしても、実施する組織が必要である。そこで、今まで色々な役割を果たしてきた「町内会」に関してどのような要望を持っているかを尋ねてみた。この結果、「近所付き合いの広がり」が最も関心を持たれ、次いで「世代交代・人材育成」が高く60%近い。「行事への参加促進」は40%未満の人が関心を持っている。ただ、町内会の活動には資金をそれほど考えていないのかもしれない(表15)。

この町内会のことにに関して、性別の違いを調べると、「未加入者対策」に関心を抱く男性が33.3%と比較的高いのに女性では23.6%と男女の間には10%の差がある。また「世代交代・人材育成」でも男性の関心が高い。女性の関心が男性の関心を上回るのは、「近所付き合いの広がり」と「活動資金の確保」であるがわずかに数%の差があるだけであり、他の項目は男性の関心が高く、前にも述べたようにこの差も比較的大きい。

表 15 「町内会」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	成 世代交代・人材育	未加入者対策	進 行事への参加促	広がり	近所付き合いの	活動資金の確保	その他
男性	60.10	33.33	41.29	59.60	19.57	1.64	
女性	54.48	23.56	36.25	61.73	20.58	1.60	
無記入	58.33	33.33	50.00	50.00	25.00	8.33	
合計	57.06	28.07	38.63	60.68	20.15	1.66	

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものはいない)。一人平均2.1の複数回答をした。

安心で落ち着いた生活を送るには、皆のマナーが守られていることは重要な要件である。また、町全体をきれいに保つためにもマナーを守ることは必要不可欠である。このマナーに関しては、「ゴミの不法投棄」、「ペットのふん」、「違法駐車」、「挨拶」、「騒音」の順に興味が薄くなっていくが、最も低い騒音ですら26.8%の回答者が関心を寄せている。「ゴミの不法投棄」や「ペットのふん」は日常

生活に結び付いた事柄である。そして、あまり交通量が多いと言えないような登別市においても「違法駐車」への関心は高い。

これを性別で比較してみると、性別による差はないように思われる。これは基本的な生活上の問題は男女に関心の差があまりないと考えるべきなのか、登別市においては日常生活が男性と女性にそれほど差がないのかもしれない。

表 16 「マナー」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	法 投 棄	ゴ ミ の 不	ふ ん ト の	ペ ッ ト の	騒 音	違 法 駐 車	挨 拶	そ の 他
男性	68.56		56.31		25.13	46.97	35.35	1.64
女性	64.39		55.54		28.25	44.99	28.68	1.92
無記入	50.00		25.00		16.67	50.00	41.67	0.00
合計	66.19		55.68		26.75	45.92	31.80	1.78

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが2名いた)。一人平均2.4の複数回答をした。

「地域活動・ボランティア活動の支援」のことに関する調査においては、「活動費などの助成」が48%と最も関心が集まったが、「備品・機器などの貸出・提供」、「活動などに対する相談」、「活動拠点の提供」が約37%となっている。ボランティア等の研修会に関する興味は、28.1%と最も低い。これは研修というものが堅苦しい感じを与えているのか、支援するという人間が生まれながら持っていると思える欲求といえるものに、色々と縛り付けることに対する反発があるのかもしれない。しかし、人間は学習しながら成長する者であるとするなら、研修会などで学びながら成長していく必要があるが、人間本来が希求する自由というものを縛り付けるのではなく、より自由で希望の持てる夢の育てられるような研修会にする必要があるのかもしれない。また、性別においてどの項目においても男性の関心が高く女性の関心が低い。「活動費などの助成」の関心において、男性の関心が女性よりも約10%高い(表17)。

表 17 「地域活動・ボランティア活動の支援」のことに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	る 相 談	活 動 な ど に 対 す	研 修 機 会 の 提 供	成 活 動 費 な ど の 助	活 動 拠 点 の 提 供	貸 出 ・ 提 供	備 品 ・ 機 器 な ど の	そ の 他
男性	39.39		30.18	53.54	37.50	38.64		2.02
女性	35.61		26.44	44.24	36.89	37.21		1.39
無記入	50.00		33.33	33.33	33.33	25.00		16.67
合計	37.43		28.19	48.39	37.14	37.77		1.78

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものはいない)。一人平均1.9の複数回答をした。

地域で安心して暮らすために、特に重要と考える活動が何かを調べた。ただ、3つまで各自が選択で

きるようにしたが選択肢がこの質問が最も多いので、選択肢の多さから各選択項目が選ばれる可能性が少なくなることを配慮しなければならない。とにかく、高齢の回答者が多いこともあって、「高齢者に対する福祉活動」が50%以上の関心があり最も高く、次いで「防犯・防災・交通安全などの活動」と「健康や医療に関する活動」とが30%を超える関心があった（表18）。

表18 地域で安心して暮らすため、特に重要と考える活動に関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	男性	女性	無記入	合計
高齢者に対する福祉活動	50.13	54.90	33.33	52.58
障がい者に対する福祉活動	19.32	18.98	0.00	19.00
教育・文化・スポーツ振興	9.72	9.17	8.33	9.41
町内会活動	29.92	19.08	41.67	24.17
民生委員児童委員活動	7.83	9.06	33.33	8.67
老人クラブ活動	7.58	5.01	0.00	6.14
子育てに関する活動	12.25	18.34	8.33	15.50
地域の美化・環境保全に関する活動	16.41	13.86	8.33	14.98
まちづくりなどに関する活動	15.28	12.37	8.33	13.66
青少年の健全育成に関する活動	13.13	12.79	25.00	13.03
健康や医療に関する活動	31.31	32.84	16.67	32.03
国際交流・国際協力に関する活動	0.88	0.85	0.00	0.86
災害時のボランティア活動	15.28	18.66	16.67	17.11
防犯・防災・交通安全などの活動	32.83	35.07	33.33	34.04
人権擁護に関する活動	2.90	4.58	8.33	3.85
その他	0.51	0.53	0.00	0.52

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(3つ以上選択したものが15名いた)。一人平均2.7の複数回答をした。

多くの方が地域の活動に参加するためには、どのような条件が整う必要があると考えているかを調べると、「活動に生きがいや充実感」があることが最も多く、次いで「時間的余裕」を挙げている。とここで、よく考えてみると、活動に生きがいや充実感があるのではなく、活動に参加するものが参加する活動に生きがいや充実感を持てるかが重要なのである。これは、計画を立てるときから「住民参加」を最も重要な事柄と考えたこのことに帰着する。自ら計画を立て、自らが価値を置く活動、活動を置くことができる活動を創り上げていくことこそが重要なのである(表19)。ところで、生きがいとか充実感とは個人的なものであることを考えると、他人から押し付けられた活動から感じるよりも、自らが考え、判断して創り上げた活動から得られる方が多いと考えるのは決して私たちだけではない。従って、住民の自主的な参加が必要なのである。また、自主的な活動を支える人々の存在も必要不可欠であり、この役割を社会福祉協議会が果たす必要があるかもしれない。即ち、社会福祉協議会が中心となった主体的な活動も必要であるが、住民の自発的な活動に協賛したりして盛り上げる活動も重要である。

地域では住民同士の支え合い、地域の中で安心して暮らすために、自身が現実に行える活動は何かを尋ねたのが、表20である。「日常的なあいさつ」や「声かけ・見守り・話し相手」がそれぞれ80.7%、64%となっている。日常的なあいさつは難しいことではないが、この活動がそれほど大きな力を発揮するとも思えないかもしれないが、全てはここから始まる。挨拶が特別なものでなく日常的なものになることが、人間関係形成における大きな一歩であることを考えれば、非常に重要なことである。

このことを性別で調べても大きな差がないことに気づく。

登別市地域福祉実践計画「きずな」を推進している社会福祉協議会の認知度は、表 21 に示すように高いものではない。これを、表 7 の性別、「きずな」認知別回答者の人数と割合と比較してみると、社会福祉協議会の方が社会福祉協議会の事業である「きずな」よりも知られている。社会福祉協議会は、「よく知っている」17.3%、「少し知っている」25.9%であるのに対して、「きずな」は「よく知っている」11.9%、「少し知っている」20.3%である。この結果を、表 22 の福祉事業への参加を含めて考えてみると、「名前程度なら知っている」と「全く知らない」の合計に近い割合が、「きずな」の事業に全く参加していないと回答している。

表 19 地域の活動に参加するための条件に関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	男性	女性	無記入	合計
経済的な余裕があればよい	32.32	29.10	16.67	30.48
時間的余裕があればよい	34.85	37.31	16.67	36.05
家庭での理解があればよい	8.08	10.87	8.33	9.59
職場での理解があればよい	8.96	7.36	0.00	8.04
必要な情報提供があればよい	21.34	23.24	25.00	22.39
仲間同士の支え合いがあればよい	17.55	21.00	25.00	19.46
趣味を生かせる活動があればよい	25.63	23.67	41.67	24.68
活動に生きがいや充実感があればよい	37.12	38.49	41.67	37.89
自ら健康であればよい	29.55	32.52	25.00	31.11
行政の積極的な支援があるとよい	27.02	22.17	25.00	24.40
ボランティア講座など学習の機会があるとよい	8.21	8.85	0.00	8.50
ボランティア活動への活動費の支援があるとよい	11.62	9.17	0.00	10.22

注) 選択は複数回数(3つまで)としたが、記入されたもの全てを算入した(4つ選択したものが13名いた)。一人平均2.7の複数回答をした。

表 20 地域住民同士の支えあいに、手伝えることに関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	男性	女性	無記入	合計
日常的なあいさつ	79.67	81.56	75.00	80.65
散歩や外出の付き添い	15.28	17.70	8.33	16.53
声かけ・見守り・話し相手	62.88	65.14	41.67	63.95
簡単な介助	15.78	21.75	25.00	19.06
悩み事などの相談相手	24.75	23.67	25.00	24.17
掃除や簡単な身の回りのこと	20.45	18.12	16.67	19.17
集いやサロン運営	7.95	9.06	8.33	8.55
何もできない	3.66	3.73	8.33	3.73
その他	0.76	1.28	8.33	1.09

注) 選択は複数選択(いくつでも)とし、選択数の制限設けていない。平均2.4の項目を選択。

表 21 登別市地域実践活動計画「きずな」を推進する社会福祉協議会の認知に関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	よく知っている	少し知っている	名前程度は知っている	全く知らない	無記入	合計
男性	159	207	224	193	9	792
女性	140	240	305	237	16	938
無記入	2	5	2	2	1	12
合計	301	452	531	432	26	1,742
男性	20.1	26.1	28.3	24.4	1.1	100.0
女性	14.9	25.6	32.5	25.3	1.7	100.0
無記入	16.7	41.7	16.7	16.7	8.3	100.0
合計	17.3	25.9	30.5	24.8	1.5	100.0

表 22 きずな計画に位置付けられた福祉事業への参加に関する、性別・回答項目別、参加者割合(%)

	男性	女性	無記入	合計
市民演芸大会	21.8	18.7	41.7	20.3
ビールパーティー	30.2	13.2	25.0	21.0
ふれあいフェスティバル	21.0	24.0	41.7	22.7
ふれあい会食会	14.3	10.2	25.0	12.2
社会福祉大会	6.6	3.2	0.0	4.7
ボランティア体験・研修会	4.9	7.6	8.3	6.4
きずなシンポジウム	6.9	6.0	0.0	6.4
いきいきサロン・子育てサロン	6.7	9.0	0.0	7.9
登別市社協創立50周年記念事業	12.2	13.2	8.3	12.7
参加したことがない	50.3	52.8	33.3	51.5

注) 選択は複数選択(いくつでも)とし、選択数の制限設けていない。平均1.7の項目を選択。

表 23 地域の福祉活動を推進するための財源に関する、性別・回答項目別、希望者割合(%)

	男性	女性	無記入	合計
市民による社協会費	31.31	26.87	25.00	28.87
市民による寄付金	32.20	24.41	25.00	27.96
企業による寄付金	41.16	33.26	50.00	36.97
共同募金	45.71	48.40	33.33	47.07
市の補助金	61.62	55.86	25.00	58.27
地域で取り組まれている社会福祉基金造成事業の益金	29.04	29.10	33.33	29.10
その他	1.26	1.49	0.00	1.38

注) 選択は複数選択(いくつでも)とし、選択数の制限設けていない。平均2.3の項目を選択。

最後に、地域福祉活動のための財源をどこに求めるべきかを尋ねたが、「市の補助金」と応える人が高か

った。その次に「共同募金」、「企業による寄付金」となっている。

「地域福祉」に住民参加が必要であるとしたが、その財源に関しても住民が直接に参加できる方法を考える必要がある。財源に関する住民の参加は、市民の寄付という考え方もあるかもしれないが、税金として納める一定の割合の中で、各市民の自らの意思でどの活動に与えるかを定める仕組みをイタリアのように考えるべき時期に来ているかもしれない。

3. おわりに

地域福祉は、国とか建とか市町村が住民のために何をどのようにするかではなく、住民の、住民による、住民のための活動である。しかし、現状では計画と実施段階だけが住民の、住民のための、住民による活動になろうとしている。本来であれば、これらに含めて財源もこの方向性が必要であると考ええる。

以前、イタリアではカトリック教会の聖職者の補助金を出していた（ムッソリーニの時代の名残だった）この仕組みを廃止するときに、イタリア政府は市民の意思によって、各自の納税の中から一定の割合（昔は5/1000、今は8/1000）を希望する宗教に収めることができる仕組みを創った。これは収めた税金をどのように分配するかを政府が決めるのではなく、市民が納税のときに意思を表明することによって決定され、納税者の意思が直接反映される。

日本の市民の寄付ということは、市民にとって税金のほかの負担となるが、納税額の中で宗教に分担するものが一定額があるならば、自分の一定額をカトリックに与えるかプロテスタントに与えるかが、納税時に自らの意思が表明でき、反映される仕組みであることが根本的に異なるところである。イタリアにおいて、この仕組みは宗教に関することだけでなく、消費者活動や人道的な活動まで適応範囲が拡大されている。

寄付でもなく、補助金でもなく、市民の意向が直接影響する税の分配であれば、社会福祉協議会の活動も現在以上に活発にアピールしながら成果を上げるようになるはずである。

生きがいや充実感のある活動にするためには、活動する我々も自身の感受性を高めなければならないが、我々の活動が市民の皆さんに認められ、支えられているという実感を持ちやすいような仕組みを構築すべきである。

社会福祉協議会が地域福祉の推進役の担い手を法律等だけでなく現実的、実質的にしていくためには、地域住民にまずは知られる必要があり、社会福祉協議会が行う事業に多くの人が参加するようにしなければならない。このためには、社会福祉協議会の存在が、あらゆる分野に及んでいることが必要である。少なくとも、社会福祉協議会に行けば、どのような問題に関しても一緒になって考えてくれるというような立場を確立する必要が必要である。

最後に、今回は男女差ということで分析を進めたが、それほど大きな差があるわけではなく、多少の趣味の違いがあるようなところが垣間見られた。これはある意味男女共同参画の事業がすすめられた結果であるかもしれない。



これからの登別のきずなを考える 市民福祉アンケート調査

登別市社会福祉協議会（社協）は、市民とともに福祉のまちづくりを進めている民間の福祉団体です。平成 18 年度に市民主体で策定された第 1 期登別市地域福祉実践計画「きずな」は今年で最終年度の 5 年目を迎えています。

今年度新たに次期 5 カ年の第 2 期「きずな」（平成 23～27 年度）を策定するために、社協ではきずな推進委員会を設置して、取り組んでいるところです。

そこで、今回も本アンケート調査や今後地域で開催される小地域座談会などを通して、市民の皆さんの想いを束ね、計画に反映させたいと考えています。

本アンケート調査については、計画づくりの基礎的資料とするため市民 3,000 人を無作為に抽出して郵送する形と各地域のきずな推進委員が地域で直接ご依頼する形の二つの方法で実施することになりました。

お答えいただいた内容は、すべて統計的に処理をいたしますので、本調査内容がこの目的以外に使用されることは一切ありません。

本調査の趣旨をご理解いただき、市民参加の計画づくりにご協力をお願いします。

平成 22 年 9 月

社会福祉法人 登別市社会福祉協議会 会長 佐藤 逸夫
きずな推進委員会 委員長 山田 正幸

お問合せ先：社会福祉法人 登別市社会福祉協議会・きずな推進委員会 事務局

〒059-0016 登別市片倉町6丁目9-1 登別市総合福祉センター内

電話 0143-88-0860 FAX 0143-88-4546

ご記入方法について

- ① 回答は無記名です。できるかぎりご本人に記入をお願いしますが、ご家族や一緒にお住まいの方に協力いただいても構いません。決して強制ではありません。
- ② 各設問で該当するところの数字に直接○をつけてください。語句説明を 8 ページに掲載していますのでご参照ください。
- ③ お答えいただきました調査票は、お手数でも 9 月 30 日（木）までに、同封の返信用封筒に切手を貼らずに封をしてそのまま返送（投函）ください。
- ④ 返信用封筒に記載されているバーコードは、社協で取り扱う郵便物であることを示すもので、個人を識別するものではありません。
- ⑤ 本調査についてご不明な点がありましたら社協までお問い合わせください。

[1] あなたのことについておたずねします。

質問1. あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 男性 2. 女性

質問2. あなたの年齢(平成22年9月1日現在)を教えてください。(○は1つ)

1. 20代 2. 30代 3. 40代 4. 50代
5-①. 60~64歳 5-②. 65~69歳 6. 70代 7. 80代 8. 90代以上

質問3. あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1. 学生 2. 農業 3. 漁業 4. 会社員・団体職員 5. 公務員 6. 自営業 7.
パート・アルバイト 8. 無職 9. その他 ()

質問4. あなたの家族構成を教えてください。(○は1つ)

1. 単身世帯 2. 夫婦のみ 3. 親と子(2世代)
4. 3世代 5. 4世代 6. その他 ()

質問5. きずな推進委員会では、市民の皆さんの意見を小学校区毎に集約します。あなたのお住まいの地域を小学校区で教えてください。(○は1つ)

1. 登別小学校区 (カルルス町、上登別町、登別温泉町、中登別町、登別東町、登別本町、
登別港町、富浦町、札内町381番地)
2. 幌別小学校区 (中央町、常盤町、千歳町、来馬町、札内町)
3. 幌別東小学校区 (幌別町、幸町、新栄町)
4. 幌別西小学校区 (富士町、新川町、片倉町、柏木町、川上町、鉦山町)
5. 青葉小学校区 (緑町、桜木町、青葉町、大和町1丁目、若山町1、2丁目)
6. 富岸小学校区 (新生町、富岸町、若山町3・4丁目、栄町3・4丁目、大和町2丁目)
7. 若草小学校区 (美園町、若草町、上鷺別町)
8. 鷺別小学校区 (鷺別町、栄町1、2丁目)

[2] 福祉のことについておたずねします。

質問6. 平成18年度に市民主体で作られた登別市地域福祉実践計画「きずな」をご存じですか。(○は1つ)

1. よく知っている 2. 少し知っている 3. 名前程度は知っている 4. 全く知らない

質問7. 登別市の福祉を進めるために、あなたが特に力を入れて取り組んでほしいと思うことは何ですか。

ア) 「高齢者」のこと (○は3つまで)

1. 孤独・孤立・無縁死対策 2. 話し相手の確保 3. 定期的な見守り支援 4. 掃除等の身の回りの世話
5. 居場所づくり 6. 買物支援 7. 虐待防止と早期発見 8. 介護者への支援
9. 権利擁護事業・成年後見制度 10. その他 ()

イ) 「障がい児・者」のこと (○は3つまで)

1. 相談窓口の充実 2. 就労支援 3. 社会参加の場の提供
4. 移動支援 5. 介護者の支援 6. 情報の保障
7. 特別支援教育 8. バリアフリー 9. 権利擁護事業・成年後見制度
10. その他 ()

ウ) 「子育て」のこと (○は3つまで)

1. 相談窓口の充実 2. 学童保育の充実 3. 緊急時の託児支援
4. 虐待防止と早期発見 5. 福祉の学習の推進 6. 不登校児童への支援

7. 遊び場の確保 8. 親子の居場所づくり 9. その他 ()

エ) 「自宅で介護するためのサービス」のこと (〇は3つまで)

1. 介護者の交流・悩み相談 2. 通院や外出の際の移動支援
3. 介護サービスを利用するための情報 4. サービス利用料の負担軽減
5. デイサービス・デイケアなどの通所サービス 6. 短期入所 (ショートステイ)
7. 夜間の利用や宿泊できる通所サービス 8. 訪問介護・訪問看護サービス
9. ケア付きの高齢者住宅 10. その他 ()

オ) 「生活」のこと (〇は3つまで)

1. 生活の困りごと相談の充実 2. 財産・日常金銭管理 3. ゴミ出し・分別 4. 医療の充実
5. 通院の介助・支援 6. 宅配 7. 低所得者世帯の経済的支援 8. 生活情報の収集
9. その他 ()

カ) 「防犯」のこと (〇は3つまで)

1. 不審者・犯罪者対策 2. 空き巣対策 3. 安全・交通パトロール
4. 悪質商法・振込め詐欺対策 5. 空き家対策 6. その他 ()

キ) 「防災」のこと (〇は3つまで)

1. 防災用品の備蓄整備 2. 適切な避難所の確保 3. 災害時要援護者の確認
4. 災害時のサポート体制 5. 防災研修 6. その他 ()

ク) 「町内会」のこと (〇は3つまで)

1. 世代交代・人材育成 2. 未加入者対策 3. 行事への参加促進
4. 近所付き合いの広がり 5. 活動資金の確保 6. その他 ()

ケ) 「マナー」のこと (〇は3つまで)

1. ゴミの不法投棄 2. ペットのふん 3. 騒音 4. 違法駐車 5. 挨拶
6. その他 ()

コ) 「地域活動・ボランティア活動の支援」のこと (〇は3つまで)

1. 活動などに対する相談 2. 研修機会の提供 3. 活動費などの助成
4. 活動拠点の提供 5. 備品・機器などの貸出・提供
6. その他 ()

[3] 地域の活動についておたずねします。

質問8. 地域で安心して暮らすために、特に重要と考える活動を選んでください。(〇は3つまで)

1. 高齢者に対する福祉活動 2. 障がい者に対する福祉活動
3. 教育・文化・スポーツ振興 4. 町内会活動
5. 民生委員児童委員活動 6. 老人クラブ活動
7. 子育てに関する活動 8. 地域の美化・環境保全に関する活動
9. まちづくりなどに関する活動 10. 青少年の健全育成に関する活動
11. 健康や医療に関する活動 12. 国際交流・国際協力に関する活動
13. 災害時のボランティア活動 14. 防犯・防災・交通安全などの活動
15. 人権擁護に関する活動 16. その他 ()

※「まちづくり」とは、住民自らが地域振興(お祭り)など様々な分野で地域を元気にする活動

質問9. 多くの方が地域の活動に参加するためには、どのような条件が整うとよいですか。(〇は3つまで)

1. 経済的な余裕があればよい 2. 時間的余裕があればよい

- 3. 家庭での理解があればよい
- 4. 職場での理解があればよい
- 5. 必要な情報提供があればよい
- 6. 仲間同士の支え合いがあればよい
- 7. 趣味を生かせる活動があればよい
- 8. 活動に生きがいや充実感があればよい
- 9. 自ら健康であればよい
- 10. 行政の積極的な支援があるとよい

- 11. ボランティア講座など学習の機会があるとよい
- 12. ボランティア活動への活動費の支援があるとよい

質問 10. 地域では住民同士の支え合いが求められています。地域の中で安心して暮らすために、あなたがお手伝いできることはありますか。(〇はいくつでも)

- 1. 日常的なあいさつ
- 2. 散歩や外出の付き添い
- 3. 声かけ・見守り・話し相手
- 4. 簡単な介助
- 5. 悩み事などの相談相手
- 6. 掃除や簡単な身の回りのこと
- 7. 集いやサロン運営
- 8. 何もできない
- 9. その他 ()

[4] 登別市社会福祉協議会（「社協」）についておたずねします。

質問 11. 登別市地域福祉実践計画「きずな」を推進している「社協」をご存じですか。(〇は1つ)

- 1. よく知っている
- 2. 少し知っている
- 3. 名前程度は知っている
- 4. 全く知らない

質問 12. 社協では、きずな計画に位置付けられている数々の福祉事業を行っています。その中でも広く市民の皆様に参加を呼び掛けている次の事業に参加したことがありますか。(〇はいくつでも)

- 1. 市民演芸大会
- 2. ビールパーティー
- 3. ふれあいフェスティバル
- 4. ふれあい会食会
- 5. 社会福祉大会
- 6. ボランティア体験・研修会
- 7. きずなシンポジウム
- 8. いきいきサロン・子育てサロン
- 9. 登別市社協創立50周年記念事業
- 10. 参加したことがない

質問 13. 地域の福祉活動を充実・強化していくことが求められています。地域の福祉活動を進めるために必要な財源は何であると考えますか。(〇はいくつでも)

- 1. 市民による社協会費
- 2. 市民による寄付金
- 3. 企業による寄付金
- 4. 共同募金（赤い羽根/歳末助け合い）
- 5. 市の補助金
- 6. 地域で取り組まれている社会福祉基金造成事業の益金
- 7. その他 ()

[5] 登別市の福祉に関わることについておたずねします。

質問 14. 登別市の福祉に関してのご意見をご自由に記入してください。

ご協力ありがとうございました。

ⁱ【社会福祉協議会】 社協は「地域の福祉を推進する団体」として法律に位置づけられており、全国の市町村に設置されています。登別市社協は、昭和42年12月に社会福祉法人として設立し、誰もが地域で安心して生活できる福祉のまちづくりをめざし、住民と地域のあらゆる団体・組織の参画と協働による福祉活動に取り組んでいる。

ⁱ【登別市地域福祉実践計画「きずな」】 平成17年度に市民1万5千人の参画を得て、市民主体でつくられた5カ年の地域福祉活動計画です。5年目を迎える今年度、次期5カ年の計画づくりを現在きずな推進委員会が行っている。

ⁱ【孤立・孤独・無縁死】 一人暮らしの高齢者などが地域から孤立した状態で亡くなることを「孤立死」。誰にも看取られることなく孤独の中で死を迎えることを「孤独死」。誰にも知られずに死に、遺体の引き取り手もないことを「無縁死」。「孤老死」「独居死」という表現もある。

- i 【**権利擁護事業・成年後見制度**】 福祉サービスの利用や日常の金銭管理(預金の出入)など、日常生活の判断に不安のある在宅で暮らしている方を支援する事業。「成年後見制度」は認知症や知的障がい、精神障がいなどの理由で判断能力の不十分な方を保護・支援する制度。
- i 【**特別支援教育**】 障がいのある幼児・児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、一人一人の教育的ニーズを把握しその持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、克服するため適切な指導及び必要な支援を行うもの。
- i 【**学童保育**】 共働き家庭や母子・父子家庭の小学生の子どもの毎日の放課後の生活を守る施設のことをいいます。
- i 【**デイサービス・デイケア**】 「デイサービス」は、送迎や食事、入浴サービス等を受けられる日帰り介護サービス。「デイケア」は、送迎や食事、入浴サービスの他リハビリを中心に行うサービス。
- i 【**短期入所(ショートステイ)**】 在宅で介護している家族の身体的・精神的負担の軽減、また家族が病气や冠婚葬祭、仕事、旅行などで一時的に介護ができない場合などに、家族に代わって施設で介護を提供するサービス。
- i 【**訪問介護・訪問看護**】 「訪問介護」は、ホームヘルパーにより、自宅での入浴、排せつ、食事などの身の回りの世話を受けられるサービス。「訪問看護」は看護師などにより、自宅での療養上の世話や必要な診療の補助を受けられるサービス。
- i 【**災害時要援護者**】 在宅で生活する方(高齢者、介護保険の要介護認定者、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、乳幼児、妊産婦)日本語に不慣れな外国人、その他疾病等で支援を必要とする方)で災害が発生した時や発生の恐れがある時に、家族などからの支援を受けることが困難であり、避難支援など何らかの助けを必要とする方のこと。
- i 【**社協会費**】 市民の皆さんが社協会員です。毎年、町内会のご協力を得て町内会に加入する全ての世帯から一般会費(年額/100円)の協力を頂いています。また、企業・商店、病院・施設等、篤志家の皆様からは、特別・賛助会費(年額/一口1,000円以上)の協力を頂いています。ご協力頂いた会費は、市民の皆様と共に進める地域支え合い活動に活用されます。
 <H21年度会費実績> 一般会費 94 町内会 1,853,900円、特別・賛助会費 1,069件 2,932,000円
- i 【**共同募金**】 地域福祉の推進を目的として社会福祉法に定められた計画募金。10月～12月の「赤い羽根共同募金」と12月の「歳末助け合い募金」がある。
- i 【**社会福祉基金造成事業**】 将来の安定した地域福祉事業の継続を図るため、地域関係者の参加と協力により市内3地区で市民演芸大会、ビールパーティー事業を実施し、その益金を社会福祉基金に積み立てている。(目標額5千万円/H22.4月現在3,805千円)

私たちが計画づくりの準備を進めています。(きずな推進委員会)

◆委員長/山田正幸 ◆副委員長/井下英之、雨洗康江

【順不同】

《登別小学校区》 ◎岸明司、○中川信市、○伊藤芳雄、須賀武郎、飯島武、白田明義、日野安信、成田光男、田代健二、小林藤子、伊藤利子、吉岡政美、秋山恵教、桶屋純一

《幌別東小学校区》 ◎鳴海文昭、○杉尾直樹○南部洋一、對馬敬子、竹中洋子

《幌別小学校区》 ◎畠山重信、○中山登、○千葉一男、脇俊昭、赤羽根範男、木村昌司、伊清淳彦、竹中脩嚴、廣田健治、前野充紀子、廣瀬 至

《幌別西小学校区》 ◎本巢松美、○鈴木尚美、○石山典子、三浦忠夫、加藤清、太田通、伊藤信一、鈴木テツ子、工藤章造、石本繁雄、若原智代

《青葉小学校区》 ◎田淵純勝、○糸井孝子、○近藤トシ子、亀山聖、今村征利、北原勲、福永晃一、吉田伸吾、小林一雄

《富岸小学校区》 ◎松山 惇、○袖山功、○筑野栄子、江口武利、佐藤弘子、二木哲成、中山晃一、小林良郷、茶畑幹三、熊本幸一

《若草小学校区》 ◎木村三郎、○南行雄、○植田正子、伊藤秀男、北井勝義、間瀬年一、山形貞子、安藤桂一、稲垣弘子、西村美代子、松川陽子、堀川千恵子

《鷺別小学校区》 ◎川口勝己、○大和田登、○中原義勝、池畠泰彦、四方田英明、竹内信子、末永弘二、川島芳治、山口洋子、村井美保子

《専門委員会》 ◎田中秀治、○安達陽子、○宮谷香二、田中恭介、佐野克幸、宮崎直人、木村義恭、辻 勲、石井友子、星川光子、吉野良子、斎藤正史、中牧昇一、室 要、榎本吉幸、菊地雅洋、高橋良夫、篠原 歩、西島智恵、須貝 愛

※専門委員は、福祉・医療・行政関係者の方々です。

◎=委員長・地区リーダー/○=地区サブリーダー

1) <http://www.3.shakyo.or.jp/cdvc/fukushi/jigyoku/katudoukeikaku.html> の3。市町村地域福祉計画および地域福祉活動計画の一体的策定の方法（1）基本的考え方に述べられている。また地域福祉計画に関しては、厚生労働省ホームページの中の「地域福祉計画」ホームページに詳しく書かれているので、これも参考にされたい。ここには、「地域福祉計画は、地域住民の皆様の意見を十分に反映させながら策定する計画であり、今後の地域福祉を総合的に推進する上で大きな柱になるものと考えております」として、住民参加の重要性を述べている。

社会福祉法 (<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/syakai/c-fukushi/keikaku/kitei.html>) も参考にされたい。

2) 登別市ホームページ (<http://www.city.noboribetsu.hokkaido.jp/>)

3) 第二期登別市地域福祉実践計画「きずな」策定要項，2010年7月

4) 登別市地域雇用創造計画，2008年2月

(<http://www.noboribetsu-koyou.jp/Anquate/koyoukeikaku.pdf>)